

[成果情報名]新たに形成されたカワウコロニーの個体数管理適地への誘導

[要約] 個体数管理に不適な場所にできた新規カワウコロニーの恒常化を防ぐために巣を撤去する場合、1日当たりの撤去巣数が多い方がその場所に対する執着心を削ぐ効果が高い。また、受け皿となる適地があれば同時期の繁殖期にそこをコロニー化することもできる。

[担当] 山梨県水産技術センター・増殖スタッフ・三浦正之

[分類] 技術・普及

[課題の要請元] 山梨県漁業協同組合連合会、山梨県養殖漁業協同組合

[背景・ねらい]

山梨県ではカワウの個体数管理を目的に繁殖抑制が可能な場所(下曾根コロニー、以下、適地)にコロニーを封じ込める対策を実施してきた。しかし、近年ここでの繁殖が行われなくなり、周辺の繁殖抑制が困難な場所(県畜産酪技セ等、以下、不適地)にコロニーが分散した。本研究では巣の撤去等による不適地から適地への誘導方法について検討した。

[成果の内容・特徴]

1. 2020年及び2022年に不適地である県畜酪技セにおいて、恒常的なコロニー化を防ぐために形成された巣の撤去を行った。2020年は脚立、2022年は主に高所作業車にのぼり、先端にかぎ爪がついた長い棒で突いて落とす方法で実施した。
2. 1日当たりの巣の撤去数が多い方が営巣数のリバウンドが少なく(図1及び図2)、カワウのその場に対する執着心を削ぐ効果が高い。
3. 2022年5月2日に実施した約40巣の撤去後(図2)、数日以内に県畜酪技セ近くの適地(中央市高部)にコロニーが移ったこともこのことの裏付けと言える(図3)。
4. 将来的に繁殖適地への誘導をより確実なものとするために、2022年5月11日にカワウのデコイを下曾根旧コロニーの樹木に設置し、地上からヒナの鳴き声の音声を流し続ける試験を行った。その結果、1巣のみであるが5月31日にカワウが抱卵している姿が確認された(写真1)。なお、形成された巣は数日後に放棄された。巣の近くに猛禽類が確認されたことから、ヒナの音声が猛禽類を誘引した可能性がある。

[成果の活用上の留意点]

1. 巣の撤去はコロニー分散のリスクを有するため、最終手段とすべきである。
2. 不適地でのコロニー化防止については、兆候をごく初期に見つけ、まずは、ビニール紐張り等の忌避効果による消滅を図るのが基本である。

[期待される効果]

カワウコロニーの一元管理による個体数管理の確実性向上

[具体的データ]

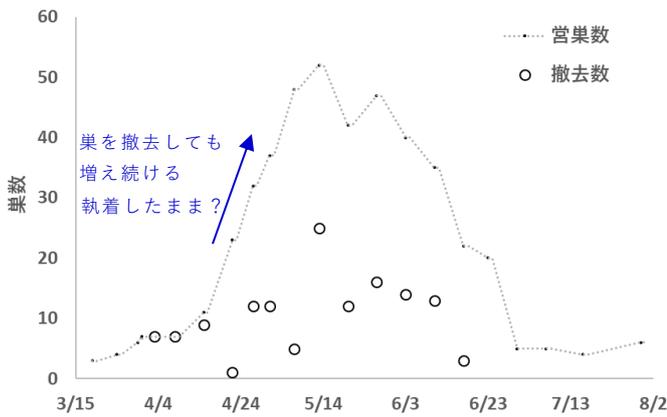


図1 県畜酪技セでの撤去巣数及び営巣数の推移 (2020)

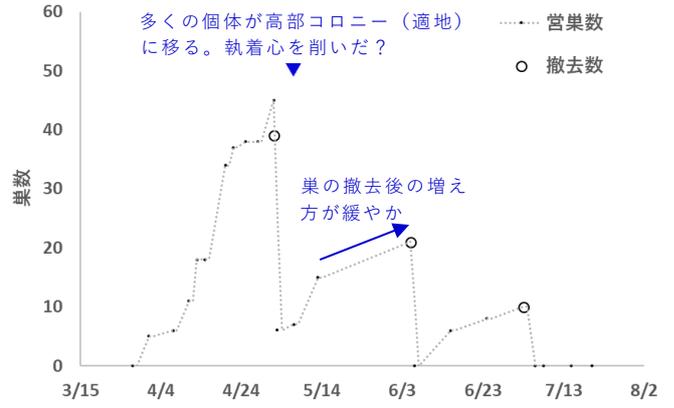


図2 県畜酪技セでの撤去巣数及び営巣数の推移 (2022)



図3 コロニーの位置関係 (国土地理院電子国土Web を加工して使用)



写真1 カワウのデコイ (実物大のカワウの模型: 左写真) とその周辺に確認された巣及び抱卵するカワウ (右写真)

[その他]

研究課題名: 魚食性鳥類対策の効率化

予算区分: 県単

研究期間: 2020~2023 年度

研究担当者: 三浦正之、谷沢弘将、芦澤晃彦、加地弘一、坪井潤一 (水産機構技術研)